

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



6月のアルミ概況および7月の見通し (4)

【輸出】

アルミ新地金が前年比-85.4%の61t。二次合金が-54.4%の741t。スクラップが+165.5%の1万8,250t。アルミ缶が-8.7%の6,210t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-15.1%の13万8,175t。二次合金が-14.4%の10万473t。スクラップが-57.7%の451t。合金スクラップが-33%の3,446t。

【見通し】

自動車は生産が+4.7%。国内販売台数が前年比-0.9%。生産は再びプラス。
生産はプラスだが販売はマイナス今後に注視。
アルミ圧延・押出品生産数は板類・押出生産合計が前年比-7.2%、17カ月連続マイナス。
板類は10万783t、▲6.8%、17ヶ月連続でマイナス。
押出類は5万8,700t、▲7.8%、3ヶ月連続でマイナス。
今後更にマイナスが続くかの動向に注視。
【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】
前年比-1.9%、6万3,946t、6カ月連続マイナス。

出荷は+0.4%、6万5,412t。今後マイナスが続くか、動向に注視。

アルミ輸出は、内需低迷からスクラップのみ増加。
アルミ輸入は内需低迷から全品種減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は販売価格の低迷、生産減、発生減から少ないのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。G20での米中貿易戦争の一時休戦を受けて相場は上昇したがメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、米朝会談後の動向に左右される。

米中貿易に関しては予想どおりG20で一旦休戦になったため一次的には好材料になるのでは？（先行きはまた課税戦争なることは間違いないが）

米朝会談に関しても、金総書記との面談ができたことは一次的にはプラス、好材料なる。（核放棄するとは思えずこちらも長期的には変化なし）

これらを踏まえた7月のアルミ価格は1,700-1,900ドル。スクラップ購買価格に関しては0から-5円程度と予測している。

【「6月のアルミ概況および7月の見通し」おわり】

<https://nikkankinzoku.co.jp/>

PW: NKWJ1907



鉛建値3,000円引き上げ27万2,000円 7月の月内平均建値は27万0,800円

三菱マテリアルは12日、電気鉛の建値を3,000円引き上げ27万2,000円と発表した。2019年7月の月内平均建値は27万0,800円。

12日入電のLME鉛相場のセツルメントは1,950.00ドル、同日の東京外国為替市場の米ドルTTSレートは109.54円、この値で換算した採算価格は21万3,600円。建値と採算価格から見た諸掛りは5万8,400円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り(トン当たり円、カッコ内は改定日)。

2019年

□1月274(7)283(22)	平均278.0
□2月291(1)	平均291.0
□3月300(1)295(13)288(22)	平均294.9
□4月288(1)282(10)	平均284.1
□5月271(7)264(13)	平均265.5
□6月260(3)272(12)	平均267.8
□7月269(1)272(12)	平均270.8



フジメタル工業

7月後半の減耗合金価格を発表

フジメタル工業は、2019年7月前半の減耗合金価格を発表し、16日から改定した。新算定価格は次の通り(ホワイトメタル<JIS規格品>、500キロ以上の大口、キロ当たり円、カッコ内は前回比、0は据え置き)。

◇1種 2,525 (-65) ◇2種 2,455 (-60) ◇2種B 2,420 (-60) ◇3種 2,380 (-60) ◇4種 2,095 (-55)
◇5種 2,050 (-50) ◇6種 1,555 (-35) ◇7種 815 (-15) ◇8種 725 (-15)
◇9種 660 (-10) ◇10種 690 (-10)

棒半田 (JIS規格品) : ◇錫60% 1,790 (-40) ◇錫50% 1,575 (-35) ◇錫40% 1,365 (-30)
◇錫30% 1,110 (-20)

原料は、錫=2,275 (-65)、アンチモン=860 (-35)、銅=686 (+7)、鉛=269 (-3)、亜鉛=320 (-11)、ヒ素=2,550 (0) となった。